

2022年7月14日



報道関係者各位

こども防災協会

カヌーに挑戦！うまく波に乗れるかな？

【なみのぼうけん】を開催しました！

2022年7月2日(土)~7月3日(日)【国立大隅青少年自然の家】

「こども防災協会」は小学生と留学生ボランティアの方々と一緒に、7月2日~3日に"いざという時、生きのびる(72時間)こどもを増やすこと"・"さまざまな国の文化や習慣に触れ、共生の感覚を持つこどもを育てること"を目的として、「なみのぼうけん」を開催いたしました。

このイベントは、次世代へ豊かで美しい海を引き継ぐために、海を介して人と人とがつながる"日本財団「海と日本プロジェクト」"の一環で実施しています。



## イベント概要

イベント名: ネイチャーぼうけん&防災キャンプ【なみのぼうけん】

日程: 2022年7月2日(土)~3日(日)

場所: 大隅青少年自然の家

参加人数: 合計110名

参加者内訳: こども85名(小学生、内 被災経験世帯5名) / ボランティア13名 / スタッフ4名 / 専門家6名 / バス運転手2名)

ボランティアの出身国: 全8カ国(フィリピン、インド、ケニア、キリバス、マレーシア、ベトナム、バングラディッシュ、フィ

## うみのレスキューゲーム

イントロダクションの段階で「溺れている人を見たら、泳いで助けに行きたい」という意見の子が全体の3割ほどいました。しかし、いきなり泳いで助けに行くことのリスクを知ると、その意見にも変化が。「まず大人の人に知らせる！」「浮くものを投げる！」など、ただ“助けに行く”ことだけが正解ではないと学んでいました。スローロープをターゲットに投げるゲームでは、思った通りにロープが届かず、いざというときにロープを投げて救助する難しさを実感。また、溺れている人役のボランティアをロープで引き上げる際、予想以上の力が必要になることに驚いていました。ゲームを通じて、海と水難救助の危険をきちんと知り、溺れている人を安全に救助する方法について体験しました。



## 海のプログラム:カヌー

この日は風・波が強く、スタート時には大半の子どもたちが四苦八苦。パドルの扱い方は正しくても、風・波の力に負けてしまい、救助艇でけん引するしかない艇も複数ありました。どんな状況でも、仲間とともに力を合わせてゴールを目指そうとする前向きな姿勢が印象的でした。全員が自力でのゴールは難しくても、この日体験した風や波のパワー、水の威力や海の怖さは大きな財産になったはずです。また、パドルリングの基本や、ライフジャケットの装着方法などいざという時に役立つスキルも体得できました。



## 参加した子ども・保護者からの声

「カヌーの時、波が高くて最初は少し怖かったけど、ボランティアさんと一緒に頑張ってゴールできました」「溺れた人に向かって投げるための、ロープの結び方をマスターしたので、いざという時も役に立つと思います」

## <団体概要>

団体名称 : こども防災協会

URL : <http://kodomo-bousai.net/>

活動内容 : 防災に役立つ判断力と行動力を学べる「こども防災キャンプ」を実施しています。キャンプには、留学生ボランティアも多数参加。さまざまな国の文化や習慣に触れながら、災害に関わる英語も一緒に学ぶことができます。



## 日本財団「海と日本プロジェクト」

さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、時に心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、子どもたちをはじめ全国の人が「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、オールジャパンで推進するプロジェクトです。

<https://uminohi.jp/>

## <お問い合わせ先>

団体名: こども防災協会

担当者名: 鹿島 美織

電話: 090-6684-9696

メールアドレス: [volunteer@kodomo-bousai.net](mailto:volunteer@kodomo-bousai.net)